

東京TSネットセミナーVol.16 開催レポート（2025年3月15日開催）

先日、小学生の息子さんがいるお母さんから、「私がお風呂に入っている最中に、息子が私のiPhoneで大人向けのサイト見ていたから、叱ったの！」という話を聞いた。私はその話を聞いて、お母さんが叱る理由もわかった上で、息子さんがそのことをお母さんに見破られたときの恥ずかしさに思いを馳せてしまい、「わかります、わかりますよ、、、でも！じゃあ！どうしたらいいんですか！その、、、欲は！」とついつい反論してしまった。

「いかなる性に属す『べき』で、何に性欲を覚え、それをいかにして満たす『べき』か」

（朝井リョウ『正欲』500頁）

社会は「正しい性」を命令し、人はいつしかそれを個人の声であるとして内面化する。

障害者の性には、その命令によって権利侵害されてきた歴史がある。

そして、時代は性差別や性暴力、性犯罪のニュースが絶え間なく流れ、「性」については、タブー視、ネガティブ、加害と被害の対立構造の雰囲気が増している。そんな中で、私たちはどうやって「性」と付き合えばいいのか。それは、「じゃあ！どうしたらいいんですか！」という、人それぞれが深く抱えながらも、閉じ続けた悩みでもある。

今回のセミナーでは、そんな性について一人一人が曖昧さの不安を抱えながらも、違いを超えて、「私はこう思うんだけど、あなたはどう思う？」という対話が生まれる場が必要だということを学んだ。それはきっと障害がある、なし関わらず、包み込まれた営みだ。

自らの「正しい性」を場に提示することはとても怖いことだと思う。誰かを傷つけたり、逆に自らを損なったりすることもあるかもしれない。しかし、人は終わりのない対話の中でこそ繋がりを育むのだろう。

セミナー後の帰り道、中華料理ですっかり食欲を満たしたお腹をさすりながら、「確かに、自分もそういうことがしたいんだよな」と、思った。

東京TSネットコアメンバー 宇都宮 志保



